

「世界を変える」

私はこれからの人生を歩むにあたって、世界を変えられる人になろうと思います。今この書き出しを読んでいる人は、馬鹿げたことを言っていると思うかもしれませんが、でも私は何ひとつとして冗談を言っているつもりも、大きなことを言っているつもりもありません。

世界を変えろということは一見ひとりでは無理だし、言ってしまうえば今年はたちになりはたちの記念式典に参加する私たち若人が束になって無理かもしれません。世界どこるか、日本すら変えられるかどうか分かりません。厳格な家父長制により根強く残り当たり前前に実践されるミソジニー、若者たちの政治的無力感とそれが産む政治への不参加、「恥の文化」のせいで牛歩である多様化。現在の日本の問題点をあげると、私が気に

なるトピックだけでも本当に歯痒くてたまらないものばかりです。いくら難しいと言っても、やはりこのような現状を変えなければならぬと私は考えます。最初にも述べた通り私は今こそ私に、また同世代のみんなに、「世界を変えられる人になること」を求めると思っています。

SEKAI NO OWARI さんの「天使と悪魔」という曲をご存知の方はいらっしやるでしょうか。その曲の歌詞の中に、「『僕ら』が変わるってことは『世界』を変えるということとほとんど同じなんだよ」という部分があります。私は小学生の頃から漠然と、歌詞のこの部分に対する憧れを抱いていました。そして所謂「大人」と呼ばれるこの歳になるまで生きてきてなお、一度としてこの歌詞を忘れたことはありませんでした。世界を変える人になるためのヒントはきつとこの歌詞の中にあります。しかし、そもそも「僕ら」を変えるにはどうしたらいいのか、私は大学二年生にな

るまでその方法がどうしても分からずにいました。地元を離れ自分のために勉強をし始めてもうすぐ二年が経ちます。この二年の中で私は、ようやく自分が何かを、あるいは世界を変えるための手立てを掴みかけている気がします。

私は今大学で文化人類学という学問を学んでいます。聞き馴染みがない方も多いと思いますし、私自身もまだこの学問について全てをうまく説明することはできませんが、文化人類学において重要なことは、当たり前を疑い続け思考を止めないことです。私は文化人類学の講義を受けていく中で、自分が信じていたものを疑い思考を止めないことが、自分が見ているもの全てを変えていくということに気付きました。恐らくこれが、「世界を変える」ということに繋がるのではないかと私は考えます。

私が今感じるもどかしさ、不安、歯痒さ、不満、これらははたちの今だからこそ浮かぶもので、こ

の先は萎んでいくのかもしれない。しかしそれでは現状のまま、問題点を抱えた世界はこのまま当たり前のような面構えで居続けます。やはり今こそ、世界を変えろという覚悟が必要です。もし今年はたちになる全員が思考を止めず当たり前を疑ったら？・そうするうちに、少しずつ実行に移す勇気が出てきたら？・思考を止めずこんなことを考えている間にも、世界がほんの小さな変化を見せる、その時が楽しみになってきているのではないのでしょうか。